野ばら

小川未明（おがわみめい）

大きな国と、それよりすこし小さな国とがとなり合っていました。とうざ、その二つの国の間には、なにごとも起こらず平和でありました。

ここは都から遠い、国境（こっきょう）であります。そこには両方の国から、ただ一人ずつの兵隊（へいたい）がはけんされて、国境（こっきょう）を定めた石碑（せきひ）を守っていました。大きな国の兵士（へいし）は老人（ろうじん）でありました。そうして、小さな国の兵士（へいし）は青年でありました。

二人は、石碑の建っている右と左に番をしていました。いたってさびしい山でありました。そして、まれにしかその辺（へん）を旅する人かげは見られなかったのです。

初（はじ）め、たがいに顔を知り合わない間は、二人はてきか味方かというような感じがして、ろくろくものもいいませんでしたけれど、いつしか二人は仲（なか）よしになってしまいました。二人は、ほかに話をする相手もなくたいくつであったからであります。そして、春の日は長く、うららかに、頭の上に照（て）りかがやいているからでありました。